**面接対策**

Ｑ国立病院機構についてどう思いますか

→私の看護師としての成長だけでなく、「選ぶ力」を支えるという私の看護観を実践していく上で、最適な環境であると確信

・信頼性に魅力を感じている：看護管理を通して、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）を確立していくことで患者さんの『選ぶ力』を尊重し、さらに信頼性向上に貢献したい

・専門性： 貴院の専門性、特に研究活動に魅力を感じています。私は学士課程で看護職による受容体プロフィールの活用について検討し、科学的根拠に基づいた看護の重要性を実感しました。患者さんの『選ぶ力』を支える看護を、貴院の研究を通じてさらに深めていきたいです。

・チーム医療の必要性を感じています：チーム医療は、患者さんの『選ぶ力』を多角的に支える上で不可欠だと思います。多様な専門職が連携し、倫理的配慮を組織的に担保することで、質の高いケアを提供したい

・ネットワーク：全国140病院のネットワークは、多様なキャリアパスを広げ、自身の看護師としての成長に繋がると感じています。

Ｑ個性、チームワークについて

→個性は多角的視点を自負、リソースナースに近い立ち位置で貢献できる点、一方、チームは相手の意見を肯定する方向にクリティカルシンキングすることをあげたい

Ｑ地域医療

→地域医療は、患者さんが住み慣れた場所で質の高い医療・生活支援を受けられるよう支えることです。精神科では、入院から地域生活への移行が重視され、多職種・地域連携が不可欠だと認識しています。私も患者さんの『選ぶ力』を尊重しながら、地域での自立した生活を支えるため、積極的に貢献していきたいです。

Ｑ小論文を要約

→私の看護理念は、患者さんの『選ぶ力』を支えることです。これは、肥前精神医療センターの『この病院で最も大切な人は患者さんである』という理念と深く共鳴しています。一人ひとりの声に耳を傾け、その人らしい選択を尊重する看護を実践したいです。

Ｑ看護理念どう思う

→『人に寄り添い、心に寄り添う看護』は、私の\*\*『選ぶ力』を支える看護観そのもの\*\*です。患者さん一人ひとりの声に深く耳を傾け、その人らしい選択を尊重する上で、心の通った寄り添いが不可欠だと考えています。

Ｑこれまでの精神科看護経験で、最も印象に残っていることは何ですか？

→最も印象深いのは、慢性期の患者さんの退院支援です。患者さんが『家に近い〇〇に行きたい』と話された際、Googleストリートビューで一緒に確認し、その意向に寄り添ったことが、退院への強い動機付けに繋がりました。小さな\*\*『選ぶ力』を支える\*\*ことが、地域生活への一歩となることを実感した経験です。

Ｑ公認心理師の資格は、看護師の仕事にどのように活かせるとお考えですか？

→公認心理師として、バイオ・サイコ・ソーシャルな視点から患者さんの心理状態を深く理解し、より多角的なアセスメントに活かせます。対話では、心理学的知識に基づき、患者さんの言葉の奥にある思いを捉え、質の高い傾聴と共感的な関わりに繋げられると考えます。

Ｑ肥前精神医療センターで、どのような看護を提供していきたいですか？

→貴院では、『精神科医療の安全性と対話の両立』を目指し、私の看護観である『選ぶ力』を支えるケアを提供したいです。公認心理師としての多角的な視点とチームワークを活かし、患者さんの地域生活への移行を包括的に支援したいと考えております。

Ｑ39歳というご年齢ですが、体力面や学習意欲についてどのように考えていますか？

→体力面では、健康意識は常に保っています。以前、上司から『とにかく休まないね』と褒められたこともあり、身体だけでなくメンタルヘルスにも配慮しています。

→学習意欲については、公認心理師資格や学士（看護学）学位取得は、人間性と専門性の両面から学び続けたいという私の姿勢の表れです。これからも新しい知識を積極的に吸収し、貴院に貢献したいです。

Ｑストレスへの対処法はありますか？

→私は、ワークライフバランスを大切にしています。また、同僚とはアイメッセージを用いた建設的なコミュニケーションを心がけ、ストレスを溜め込まず、心身の健康を保っています。

Ｑ逆質問はありますか？

→1看護管理者資格取得支援について「私は将来的に、看護管理の立場からチーム医療を推進し、患者さんの『選ぶ力』を支える医療体制の構築に貢献したいと考えております。貴院では、看護管理者資格の取得に対する支援や、キャリアアップの機会はございますでしょうか？」

→2研究支援について「私は学士課程で看護職による受容体プロフィールの活用について検討しましたが、今後も科学的根拠に基づいた看護を追求し、研究活動を継続していきたいと考えております。貴院では、研究活動を支援する体制や、大学院進学に関する支援はございますでしょうか？」

Ｑ　自身の強みと成長意欲をアピールしてください

→私の強みは、物事を多角的に捉え深く考察する力と、チームの意見を肯定的に捉え、建設的な方向へ導くクリティカルシンキングです。公認心理師や学士（看護学）の取得は、専門性と人間性の両面から学び続けたいという成長意欲の表れ。これらの強みと意欲で、貴院の精神医療に貢献したいです。

Ｑ　あなたのこれまでのご経験について

→私は約15年間、精神科看護に一貫して携わってきました。複数の病院で急性期から慢性期、訪問看護まで多様な経験を積み、特に患者さんの「選ぶ力」を支える看護を実践してきました。公認心理師資格や学士（看護学）の取得で、より多角的な視点からのケアを深めています。

面接全般のポイント

はっきり声、笑顔、目を見て、○簡潔に× 長々と ○要点をまとめて、沈黙を恐れず整理して、声に出して練習を、

◎機構の危機は医療界の危機、少子高齢化、医療費の増大、

地域医療の格差と崩壊、パンデミック対応への課題、DX（ﾃﾞｨｰｴｯｸｽ、ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾄﾗﾝｽﾌｫｰﾒｰｼｮﾝ）の遅れ、私はその危機から機構を、日本を救う覚悟で就職に臨む